

## 2022年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
22201	解剖学 Human Anatomy	安藤正人		専門	2	必修	1前期

## 科目の概要

「解剖学」は人体の構造を細胞から個体レベルにまで系統的に解き明かすことであり、皆さんのように栄養士としてあるいは医療と関わる仕事をを目指す人にとっては生命現象を科学的に理解するうえで必須かつ基幹的な科目の一つである。そこで、人体構造を理解するためには、構造的に関連する器官や臓器の集団を系（システム、system）として10区分し、系を構成する器官や臓器の相互関係について構造上の類似性によってどのような働き（機能）を支えているか修得する。また、細胞レベルの微細な構造を扱う「組織学」や個体の「発生学」、「比較解剖学」などの知見とも関連付けながら授業を進める。この授業では、栄養士に必要な客観的な証拠に基づいて科学的にもごとの判断ができる能力を身につけることができる。併せて、この講義では、DPで求める主体的な学修態度や課題発見力などの行動特性（社会人基礎力）の獲得と知識を活用して課題解決に至るpisa型学力を身に付けることができる。

学修内容	到達目標
<p>① 細胞の形態的構造とその分子レベルの特徴を知り、説明できることを目的とする。</p> <p>② 人体の機能的器官別10区分（系）として、骨格系、筋系、神経系、感覚器系、内分泌系、消化器系、循環器系、呼吸器系、女性生殖器系、男性生殖器系）の形態とその特徴を知り、説明できることを目的とする。</p> <p>③ 基本的な解剖学用語表記を知り、使用することができることを目的とする。</p> <p>④ 形態の理解では、人体模型を自らスケッチして器官の相互関係を理解し、解剖学用語に基づく名称を与えることができることを目的とする。</p>	<p>① 人体を構成する基本単位である細胞と同種の細胞が集団化して機能的に分化した組織、さらには異なる組織により形成される器官や臓器の成り立ちを説明することができる。</p> <p>② 人体を10の器官や臓器の集団系（システム、system）に区分し、具体的にはそれぞれ骨格系、筋系、神経系、感覚器系、内分泌系、消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系および生殖器系について構造上の特性を</p> <p>③ 基本的な解剖学用語（器官や臓器名、人体の外形区分の表記法など）については、日本語と英語で表記できる。</p> <p>④ 教科書あるいは模型で示される臓器や骨格などの標本を対象に自らスケッチ（図示）することで、臓器等の形状を構成することができる。</p>

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性 授業以外の時間を使い自己学修で知識を深め、また、課題に取り組むために必要な知識を資料（ネット）や参考書を利用して収集し、解決できる。
	働きかけ力
	実行力 到達目標、評価方法等を確認して、目指す成績目標を設定すること。その上で、目標が達成できるよう復習や予習に取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力 本科目で人体の構造を理解し、また「生理学」を学修することで、人体を構成する器官や臓器の働きの仕組みが分かり、その上で、ヒトがヒトたる所以について推察することができる。
	計画力
	創造力 本科目や「生理学」、「解剖生理学実験」で学んだ知識だけでなく、他の科目や汎用的知識を動員して、自らの客観的発想ができる。
チームで働く力	発信力 グループ内で課題について教科書や文献を検索し意見を述べる時、あるいは発表する時、聞き手にわかりやすく理解が十分にできるようポイントを整理して発表できる。
	傾聴力 グループワークで課題について意見交換する際、相手の意見を十分に聴き、効果的な質問をして、自分の意見を述べるることができる。
	柔軟性
	状況把握力
	規律性 遅刻・無断欠席など学修意欲欠如をきたす行動をせず、円滑に授業が進行するようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力

## テキスト及び参考文献

テキスト：「図説解剖生理学」 磯野日出夫ら著（東京教学社） 2,000円

## 他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：「生理学」、「生化学」、「病理学」、「解剖生理学実験」、「科学概論」  
資格との関連：栄養士（管理栄養士）、 医事管理士、 医療管理秘書士

学修上の助言	受講生とのルール
使用するテキストの図は自らスケッチするなど形態の理解に努めるとよい。日常的に、関連する生物学の基礎的内容については、ネットや図書館利用で知識を得るとよい。解剖学用語や器官・臓器などの英語表記については何度も書いて復習するとよい。	授業中の私語は周囲の迷惑となるので慎むこと。携帯電話は電源を切りカバンの中に入れておくこと。質問などは、授業内と時間外で積極的に行うこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学 期 末 試 験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	70	①	✓	人体の細胞や組織と臓器・器官の機能的連携を表す系について、形態的な特徴を説明できること。器官や臓器の相互関係について図示できること。 解剖学用語の内、基本的な表記が出ること（日本語・英語）。 10の生体システム系について分かりやすく説明できること。 また、解剖学必須の学修内容を理解し、ポイントを捉え、自分の表現で記述し説明しているかについて確認して評価する。解剖学を学び、自ら課題を発見し、その課題について調べることで、課題解決の学力（pisa型学力）として評価します。したがって、授業を通して、課題の確認とその解明作業を行っておくこと（期末試験ではこのことについて出題します。）	
				②	✓		
				③	✓		
				④			
	学修成果	小テスト		20	①		✓
					②		✓
					③		✓
					④		✓
		レポ ー ト		0	①		
					②		
③							
④							
成 果 発 表 （ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン ・ 作 品 制 作 等 ）			0	①			
				②			
	③						
	④						
学 修 行 動	社 会 人 基 礎 力 （ 学 修 態 度 ）		10	①	✓		
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>★人体を10の区分（系）に機能的に分割して、その器官や臓器の形態的特長及び名称を記述し、また口頭でも的確に説明できること。（①）</p> <p>★栄養士実力認定試験ガイドラインで示す本領域での基礎的知識を的確に説明できること。（②）</p> <p>S（秀）＝①+②、A（優）＝①又は②</p>	<p>★人体を10の区分（系）に機能的に分割して、その器官や臓器の形態的大要及び名称が記述でき（①）、口頭でもわかりやすく説明できること。（②）</p> <p>B（良）＝①+②、C（可）＝①</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	○ 人体構造の概要 解剖学的表記法、人体外形区分、器官・臓器の位置と名称(英語表記を含む)を理解する。	講義 今後の授業の進め方や自己学修の方法等について、また、授業冒頭で小テストまたは口頭試問を行うことなど説明する。	解剖学的表記法、外形区分、臓器・器官の位置と名称をわかりやすく説明することができる。	(復習) ノートへ人体構造の概要と英語表記を記入すること。 (予習) 次回の細胞の構造の詳細についてノートへ図示し名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	○ 細胞と組織 細胞の構造と組織(上皮、支持、筋、神経)の特徴を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えした後、フィードバックする)。授業では、内容の質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	細胞と組織の形態的特長を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) ノートへミトコンドリアと細胞膜の詳細を図示すること。 (予習) 次回の人体骨格の概要についてノートへ図示し、名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	○ 骨格系 身体の枠組みである骨格系の全体像と主要骨格の位置と名称を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えした後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて学生間でディスカッションし、解決を試みる。	骨格系の全体像を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 関節の構造について種類別にノートへ図示すること。 (予習) 次回の筋系の命名法についてノートでまとめること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	○ 筋系 骨格筋、平滑筋、心筋の形態的特長と主要筋について理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えした後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	骨格筋、平滑筋、心筋の特徴を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) テキストの図を参考に骨格主要筋をノートへトレースして位置と名称を記入すること。 (予習) 次回の中枢神経系の構成についてテキストの図をノートへトレースし名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	○ 神経系Ⅰ 神経系は中枢神経と末梢神経に大別される。ここでは脳と脊髄の中枢神経の形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えした後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	脳と脊髄の形態的特長と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) テキストの脳と脊髄をノートへ図示し名称を記入すること。 (予習) 次回の末梢神経系の構成について図をノートへトレースして名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	○ 神経系Ⅱ 脳と身体各部位とを連絡する末梢神経(脳神経と脊髄神経)の形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えした後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	脳神経と脊髄神経の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) テキストの図を参考に12の脳神経の種類と支配器官を覚えること。 (予習) 次回の感覚器系を構成する特殊感覚と体性感覚の構成を覚えること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	○ 感覚器系 特殊感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・平衡)と体性感覚(触・圧・冷・温)の受容器の形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えした後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	感覚受容器の形態と支配神経を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 味覚に関する支配神経(脳神経)を覚えること。(予習) 次回の種々の内分泌系を構成する産生部位と標的部位をノートへまとめること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	○ 内分泌系 内分泌腺(視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、生殖腺、他)の形態と標的を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えした後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	視床下部、下垂体、副腎、膵臓、生殖腺のホルモン産生細胞と標的を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 各ホルモン産生部位の形態と名称、標的部位の名称をまとめ覚えること。 (予習) 次回の上部消化器系の構成をノートへ図示し、名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	○ 消化器系 I 口腔、歯、咽頭、食道、胃の形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	口腔、歯、咽頭、食道、胃の形態と名称を理解しポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) テキストを参考に口腔、歯、咽頭、食道、胃をノートへ図示し名称を記入すること。 (予習) 次回の下部消化器系と肝臓・膵臓の構成をノートへ図示し、名称を与えること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	○ 消化器系 II 十二指腸、空腸、回腸、盲腸、上行結腸、横行結腸、下降結腸、S状結腸、直腸、肛門と肝臓及び膵臓の形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	十二指腸から肛門までの消化器系と肝臓及び膵臓の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) ノートへ十二指腸と肝臓と胆嚢と(胆管)と膵臓(膵管)の関わりを図示し、名称を記入すること。 (予習) 体循環と拝循環のルートを覚えること。	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性
11	○ 循環器系 心臓の形態と名称、体循環とび肺循環及び門脈系の血管名称と形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	心臓の形態、体循環とび肺循環及び門脈系形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) ノートへ体循環と拝循環を流れる血管の構造の違いと血液の性状についてまとめること。 (予習) 次回の呼吸器系の構成の概要を図示し、名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性
12	○ 呼吸器系 外鼻、鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺の形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	外鼻、鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 上気道と下気道の構成をノートへ図示し名称を記入すること。 (予習) 次回の女性生殖器の構成についてノートへ図示し、名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	○ 女性生殖器系 I 卵巣の形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	卵巣の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 排卵を制御するホルモンの種類についてノートでまとめること。(予習) 次回の子宮の形態について図示し名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	○ 女性生殖器系 II 子宮の形態を理解する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	子宮の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) 子宮の微細構造をノートへ図示し名称を記入すること。 (予習) 次回の男性生殖器の概要をノートへ図示し、名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	○ 男性生殖器系 精巣とその付属器官の形態を学習する。	講義 授業の開始時に、小テスト(復習内容の質問に口頭又は記述で答えた後、フィードバックする)。授業では、質問を受けて、学生間でディスカッションし解決を試みる。	精巣とその付属器官の形態と名称を理解し、ポイントが整理され、わかりやすく説明することができる。	(復習) ノートへ精巣と付属器官の構成について図示し、名称を記入すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力